

まったく怪しげな哲学入門

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋

時の流れと自然淘汰

みなさんお元気ですか。今回はちよつと我儘な企画ですが、お許しください。

僕がかねがね学力研の実践は「時の流れと自然淘汰」だと言ってきました。学力研では多くの実践家が、これこそが『いつでもどこでもだれでもできる実践だ』これこそが『学力の基礎をきたえ、どの子も伸ばす実践だ』と野蠻な情熱で自分の実践を自信満々に発表し会員にその真価を問うてきたのです。これこそが「落ち研」以来のこの研究会の力の源泉だったと思います。

しかし、その実践が優れているか、多くの先生に受け入れられるかどうかは「自然淘汰」に任せよう……。学力研にはカリスマはいらない。これが学力研の生き方であったし、優れた点であったと思います。自然淘汰……。素晴らしい。

「来るものは拒まず、去る者は追わず」これもまた、わが研究会のテーマのようなものでした。たくさんの新しい友が入会し、たくさんの仲間が新しい活動の場を求めて去っていきました。これも我が研究会の活力の源でしたが、寂しさもまた事実です。

「時の流れ」これもまた、さみしいものです。多くの仲間が去っていきました。学力研は現役教師の会なのだからそれは、それは当然のことなのです。でも嘆くことはありません。この会はその会員同士の中で、励ましあい、学びあって、たくさんの学びの連鎖を築いてきたのですから……。

たくさんの学びをありがとう大分

今回、八年間、十三回におよび、延べ六百十五人に聞いて頂いた「学力研大分久保講座」を終わることにしました。私は大分

で講演することでたくさんのことを学ばせていただきました。毎回、先生方の感想文がきれいな冊子にして送っていただきました。ありがとうございます。その一味が大分なのだ。冊子を読みながらいつも勇気と活力をいただけていました。

大分へのお声かけをいただいたのは福田節子先生でした。宇佐での講演のときに、大分から車を飛ばして聞きにきていただき、声をかけて下さったのです。彼女の「おいしいものは独り占めしないで、みんなで食べよう」という思想が大分の講演会をこんなに長く、しかも若い人達に広げてくれる原動力になったのです。また、いつの日にか「クエ鍋と卓球」に大分へよせていただきますね。

感想文の冊子から

「金閣小学校での『ごんぎつね』の授業を見せていただいたことが、ついこの前のようにです。徹底した授業分析をした上で、どの子も一斉授業の主人公になれる発問の工夫など……。それから四年生を希望しつ

づけて何度も「こんぎつね」を子ども達と
いっしょに授業してきましたが、いつも、
あの時の久保学級に近づきたいとがんばれ
ました。この十年の私の実践のエネルギー
の源になって下さりありがとうございます
た。学力研の友達とこれからもいっしょに
学び実践していきたいと思えます。」

井伊 理恵

「福田先生が、さそって下さって、毎年、
年二回出席させていただきました。以前か
ら学力研の本を求めて基礎学力のつけ方
について試行してきましたが、久保先生のお
話を聞いて、科学して指導する大切さを教
えていただき、実践が分かりました。又「快
適な衝動」等、子どもの発達に即した心理
の成長を踏まえた指導を意識するようにな
って、学習指導や学級経営が変わり楽しく
子どもと接することができるようになりま
した。学習規律についても、ステップ1、
ステップ5まで考えながら、ステップ4、
5はどうてい手が届かないと思いつつラ
イしています。

毎回、たくさん刺激をしていただいて、

明日への活力をいただいてたくさんスキ
ルを心構えをいただいて、感謝しています。
大分でお会いできなくなるのはとても残念
ですが、これからも学んでいきたいと思
います。又、機会がありましたら大阪、京都
へも行きたいと思えます。本当にありが
うございました。」

森次 尚美

「今回二回目の参加で、前回ノート指導
の話をお聞きし、今年の四月から取り組ん
でみました。私も国語から始めてみました
が、自分の板書計画をしたことをもとに子
どもに指示が出だせるようになったので、
授業の流れがスムーズになり、子ども集
中して指示が聞けるようになりました。ど
の子もとてもきれいなノートが仕上がって
いて「初めて見返して読めるノートになっ
た」「何を学習したかが分かる」と話して
いました。この子どもの言葉を聞き、取り組
んで良かったと感じました。

「自分の十八番を一つでももっておく」と
いう先生の言葉を聞いて、今の自分の十八
番と言えるものは何か・・・考えました
が自信をもって言えるのではないと感じま

した。これから一つずつ取り組んで、自分
の十八番にしていきたいです。実践につな
がり多くの話をありがとうございます。
まだまだ多くのことを学んでいきたいです。」

坂本 佳奈

久保先生の講座には福田先生に誘って
いただいてからでした。「二斉授業」「読み書
き計算」と今まで当然と思っていたことの
意義について教えていただきました。

音読、ノート指導、板書計画など具体的
な方法を指導していただき、次の日の授業
に生かすことができました。学校は何のた
めにあるのかを考えると、子どものために
あり、子どもたちの努力が成果に結びつく
ように指導をしていかなければならないこ
とを考えさせられました。

『愛することを教える』授業づくり」を読
ませていただき、愛することが「成長を願
って労働すること」とお聞きして「愛する
こと」を表すことは難しいのですが納得で
きたように思います。御縁に感謝いたしま
す。ありがとうございます。

岩尾 知子